

稲陵会報

第54号

発行 学校会
横田高等学
稲 陵 会
令和2年
3月1日

会長就任の御挨拶と 横田高校創立百周年 記念事業の御礼



稲陵会 会長
石原 肇
(第42期)

昨年12月に、稲陵会の松浦昇前会長が亡くなりました。故松浦前会長は平成13年度から6年間副会長を務められた後、平成19年度に会長に就任され、以後12年間にわたって会長を務められました。故松浦昇前会長の長年にわたる御功績に対して、心より感謝申し上げます。

生を輩出して、それぞれ社会で活躍しておられます。稲陵会の使命は、会員相互の親睦と母校支援が、会則で示されています。町内9地区と周辺部3地区で支部が組織され、また東京・大阪(関西)・広島・松江にも支部があります。その他、島根県内の「教職員の会」や奥出雲町内の「稲朋会」等があり、それぞれ毎年総会兼懇親会が開催されています。

昨年、横田高校創立百周年記念式典が開催されました。百周年の事業は、学校後援会・PTA・稲陵会・高校の代表からなる実行委員会が企画し、学校後援会・PTA・稲陵会が資金提供して実施してきております。特に稲陵会では、会員の皆様に寄付金活動においてひとかたならぬ尽力を賜りました。また、11月2日の式典には、地元支部は勿論、東京・大阪(関西)・広島・松江支部からもご出席賜りました。厚くお礼申し上げます。

さて、令和元年6月の評議員会において、新しく会長に選出頂きました。百周年事業を控えた時期の交代で、やや戸惑いもありましたが、以前横田高校勤務時代に本会の校内幹事をしてきた事や、これまでの副会長経験等から、お引き受けた次第でございます。

ご存じのように、横田高校は地元唯一の高校であり、多くの卒業生を輩出して、それぞれ社会で活躍しておられます。稲陵会の使命は、会員相互の親睦と母校支援が、会則で示されています。町内9地区と周辺部3地区で支部が組織され、また東京・大阪(関西)・広島・松江にも支部があります。その他、島根県内の「教職員の会」や奥出雲町内の「稲朋会」等があり、それぞれ毎年総会兼懇親会が開催されています。

ています。そのような中で稲陵会を盛り上げるためには、会員同士の協力や諸機関との連携が必要最低条件であり、百十周年に向かって皆様と共に、頑張りたい所存です。で、宜しくお願い申し上げます。挨拶とします。



モニュメント(稲陵会館前)

『社会から学ぶ』 生徒を育てる



校長
黒田 克司

私は昭和60年度から4年間本校で勤務しましたが、前回勤務との大きな違いは、昭和終わり頃の生徒数が600人を超えていたのに対して、現在は240人ほどに少なくなったことです。世間で言う「スケールメリット」が縮小し

つつあるならば、『小さな』スケールが持つメリットを伸ばすことが重要だと考えています。その一環として目指したことは、11月2日の創立百周年記念式典に続く記念講演の講師を作詞家秋元康氏に依頼し、「生徒たちが自分です分の未来を切り開くこと」に関してアドバイスとなる講演を実現することでした。正解がなく、先行き不透明な時代であるからこそ、『予定調和を壊す』を提唱している同氏から、既成概念に縛られない考え方を講演の形にし、小さな学校ができることをお話いただくよう話を進めていました。しかし、本番直前の10月終わりに「東京オリンピックのマラソンと競歩の会場を札幌に移す」話が急浮上し、オリンピック・パラリンピック組織委員会理事を務める同氏の国事会議への参加招集があり、講演は中止とせざるを得なくなりました。本番直前の急展開で大変残念に思いました。

田高校として強く推奨しています。「地域活動Funクラブ」と銘打って、今年度始めの4月から令和元年12月までに参加したイベント数(ボランティアや地域活動)が約70、参加者数が延べ340人に上っています。生徒たちは今までに経験がないことを学び、地域の皆さまからは感謝の言葉をたくさんいただいております。

創立百周年記念の今年度、歴史の大きな1ページをめくる機会に立ち会わせていただいたことは大変名譽に感じています。皆さまからのご寄付やご厚意は記念式典、ホッケー招待試合、記念史発行、モニュメント設置以外にも、学校の施設・設備にも充てさせていただきました。学校の中で生徒たちが育っていくために有効活用させていただきますが、先ほど述べたような広い学びに関して稲陵会の皆さまからもご支援をいただきまますようお願いいたします。

学校の教育活動の中では、教科書を使った授業、学校行事や部活動などを行っています。しかし将来的には社会で働く生徒たちですから、学生である現段階でも学校の外部に『学びの場』を地域の皆さまから提供していただいて、体験的活動から多くを学ぶことを横



しめ縄づくり(稲田姫神社)

支部だより

東京支部総会

支部長

三澤 啓二

(第45期)

第61回稲陵会東京支部総会・懇親会を、6月8日銀座サッポロライオン銀座7丁目店で開催いたしました。

本部からは石原肇会長代行、横路仁朗副会長、植田祐行校内幹事

長、日南支部から丸山悟支部長、母校からは黒田克司校長先生のご出席をいただき、50名の参加者で盛大に開催いたしました。

総会では会計報告、会計監査報告が行われ全会一致で承認されました。石原会長代行から創立百周年記念事業、式典等の準備の模様をご紹介いただきました。また黒田校長先生からは母校及び後輩諸君の活躍の様子をお話しいただきました。

懇親会は江正吉さん(37期)の乾杯の発声で始まり、おなじみの方、久々の再会となる方等、時が経つのを忘れて、出席者の歓談が弾みました。郷里ゆかりの品々ととり揃えたお楽しみ抽選会で更に盛り上がりしました。

また、塚本正志さん(65期)か

ら、ホッケー実技の披露があり、来る東京オリンピックに向けて後輩諸君の活躍を期待する旨の紹介がありました。

最後に黒田校長先生から山陰放送「嗚呼懐かしわが校歌」のエピソードを紹介頂き、出席者で「その空の深さがごとく」の校歌を斉唱し来年度、再会することを誓い閉会となりました。

◆東京支部についてのお問い合わせは

TEL

(042)449-2517

幹事長 藤木 真



関西稲陵会「集いの会」

支部長

澁川 博利

(第50期)

9月8日、関西支部は大阪市難

波道頓堀ホテルにて「集いの会」を開催、今年は80名を超える参加がありました。

当日は本部から石原肇会長、安部隆副会長、植田祐行校内幹事長、亀嵩支部から米原利則支部長、母校からは黒田克司校長先生、恩師として坂上優香先生にご臨席いただきました。

オープニングは毎年好評の40期白名博美さんと野村市子さんによるマジックショーで開会。澁川支部長のあいさつの後、石原会長のごあいさつ、黒田会長からは母校の近況報告がありました。

今回も懇親会の前に参加者全員による記念撮影を行い、当日、参加者全員に写真を配布することができました。

懇親会は、源大佑名誉会長の乾杯の音頭で始まり、同期を中心としながらも、期別や地域を越え、懐かしくも楽しく交流を深めました。恒例のゲームでは参加者が豪華賞品をめざし、大いに盛りあがりました。

瞬く間に時間が過ぎ、参加者全員による校歌斉唱の後、山田貫一副支部長のあいさつで閉会となりました。その後、会場を移し二次会を開催、約30名が参加し、楽しいひとときを過ごしました。

広島・山口支部からは安部英幸さん、市田治己さんの2名が参加されました。今後も東京支部を含

め、支部間交流を進めていきたいと考えています。

令和2年も「集いの会」を9月13日(日)に道頓堀ホテルでの開催を予定しています。

また、レクリエーションの専門部としてゴルフ(須山耕二郎長)やハイキング(鐵池宣晴部長)49期、藤原盛雄さんから交代)もこなっています。

関西稲陵会は横田高校卒業生で



広島・山口支部総会

事務局長

田中 啓一

(第54期)

令和になり初めての支部総会が開催されました。

来賓として稲陵会本部から横路副会長と植田校内幹事長、鳥上支部から荒川事務局長、関西稲陵会から澁川支部長と長谷川事務局長、母校から黒田校長先生の出席がありました。

野村支部長がオリンピック開催の年にちなみ、母校出身の女子ホッケー選手がオリンピック代表に選考されることへの期待を会員として注目してほしいこと、創立百周年を迎えた母校の発展と瀬戸内地域から子弟の入学の支援などを会員に要望がありました。

また、昨年12月に逝去された元

あれば誰でも参加できます。「集いの会」は参加された方々が楽しんでいただけるよう、役員一同いろいろ企画を考えています。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

◆関西稲陵会に関するお問い合わせは

TEL

090-4539-2273

事務局長 長谷川健

支部だより

東京支部総会

事務局長

藤木 真

(第60期)

第61回稲陵会東京支部総会・懇親会を、6月8日銀座サッポロライオン銀座7丁目店で開催いたしました。

本部からは石原肇会長代行、横路仁朗副会長、植田祐行校内幹事長、日南支部から丸山悟支部長、母校からは黒田克司校長先生のご出席をいただき、50名の参加者で盛大に開催いたしました。

総会では会計報告、会計監査報告が行われ全会一致で承認されました。石原会長代行から創立百周年記念事業、式典等の準備の模様をご紹介いただきました。また黒田校長先生からは母校及び後輩諸君の活躍の様子をお話しいただきました。

懇親会は江正吉さん(37期)の乾杯の発声で始まり、おなじみの方、久々の再会となる方等、時が経つのを忘れて、出席者の歓談が弾みました。郷里ゆかりの品々ととり揃えたお楽しみ抽選会で更に盛り上がりしました。

また、塚本正志さん(65期)か

ら、ホッケー実技の披露があり、来る東京オリンピックに向けて後輩諸君の活躍を期待する旨の紹介がありました。

最後に黒田校長先生から山陰放送「嗚呼懐かしわが校歌」のエピソードを紹介頂き、出席者で「その空の深さがごとく」の校歌を斉唱し来年度、再会することを誓い閉会となりました。

◆東京支部についてのお問い合わせは

TEL

(042)449-2517

幹事長 藤木 真



関西稲陵会「集いの会」

支部長

澁川 博利

(第50期)

9月8日、関西支部は大阪市難

波道頓堀ホテルにて「集いの会」を開催、今年は80名を超える参加がありました。

当日は本部から石原肇会長、安部隆副会長、植田祐行校内幹事長、亀嵩支部から米原利則支部長、母校からは黒田克司校長先生、恩師として坂上優香先生にご臨席いただきました。

オープニングは毎年好評の40期白名博美さんと野村市子さんによるマジックショーで開会。澁川支部長のあいさつの後、石原会長のごあいさつ、黒田会長からは母校の近況報告がありました。

今回も懇親会の前に参加者全員による記念撮影を行い、当日、参加者全員に写真を配布することができました。

懇親会は、源大佑名誉会長の乾杯の音頭で始まり、同期を中心としながらも、期別や地域を越え、懐かしくも楽しく交流を深めました。恒例のゲームでは参加者が豪華賞品をめざし、大いに盛りあがりました。

瞬く間に時間が過ぎ、参加者全員による校歌斉唱の後、山田貫一副支部長のあいさつで閉会となりました。その後、会場を移し二次会を開催、約30名が参加し、楽しいひとときを過ごしました。

広島・山口支部からは安部英幸さん、市田治己さんの2名が参加されました。今後も東京支部を含

め、支部間交流を進めていきたいと考えています。

令和2年も「集いの会」を9月13日(日)に道頓堀ホテルでの開催を予定しています。

また、レクリエーションの専門部としてゴルフ(須山耕二郎長)やハイキング(鐵池宣晴部長)49期、藤原盛雄さんから交代)もこなっています。

関西稲陵会は横田高校卒業生で



あれば誰でも参加できます。「集いの会」は参加された方々が楽しんでいただけるよう、役員一同いろいろ企画を考えています。たくさんの方々参加をお待ちしています。

◆関西稲陵会に関するお問い合わせは

TEL

090-4539-2273

事務局長 長谷川健

広島・山口支部総会

事務局長

田中 啓一

(第54期)

令和になり初めての支部総会が開催されました。

来賓として稲陵会本部から横路副会長と植田校内幹事長、鳥上支部から荒川事務局長、関西稲陵会から澁川支部長と長谷川事務局長、母校から黒田校長先生の出席がありました。

野村支部長がオリンピック開催の年にちなみ、母校出身の女子ホッケー選手がオリンピック代表に選考されることへの期待を会員として注目してほしいこと、創立百周年を迎えた母校の発展と瀬戸内地域から子弟の入学の支援などを会員に要望がありました。

また、昨年12月に逝去された元

周年事業に当たっては趣意書により募金活動を行っていただき目標額を達成したところである。又県外の会員からも多くの募金があり、これまでに7回の実行委員会をかねて順調に進んでおり、11月2日には記念事業が開催される。次に黒田校長先生より校長に着任して2年目①生徒の状況は、各学年3クラスで1学年82名、2学年73名、3学年90名の計245名、今年度は、町内から60名の入学、町外9名、県外から13名の入学があった。生徒を確保するため地元中学校から入学していただくことが基本だが、外からも積極的に生徒を呼び込もうと、寮生は3年生9名、2年生10名、1年生20名となり、現在の寮(定員24名)では足りない状況で、本年は島根デザイン専門学校のセミナーハウスを

専門学校がさらに連携を深め、地元奥出雲の子をどう育てていくのかという思いに馳せられました。最後に旧校歌を斉唱し、川角朋之雲南市立田井小学校長の万歳三唱にて会を閉じました。

来年度も多くの会員の方にお集りいただき、会員の親睦を深めるとともに、幼稚園から高等学校、専門学校まで各校種間の連携が円滑に進み、子どもたちの健やかなる成長につながることを願います。

交わる機会の少ない異校種の教職員ですが、おおいに盛り上がった会となりました。懇親の際に渡部一哉横田高校教頭から横田高校の近況についてお話ししていただきました。また、今年度開催された横田高等学校創立百周年記念式典で放映されたスライドショーを、用意していただきました。次の100年に向けて、幼、小、中、高

（第60期）

(第77期)



支部間交流

支部間交流も始まって四年目になります。今年度は地元支部の代表者が域外の四支部の総会等に参加し、交流を深めました。

○雲南支部(5月26日)へ

八川支部 支部長

松崎正芳様(41期)

○東京支部(6月8日)へ

日南支部 支部長

丸山悟様(53期)

○関西稲陵会(9月8日)へ

亀嵩支部 支部長

米原利則様(51期)

○広島・山口支部(1月18日)へ

鳥上支部 事務局長

荒川佳史様(60期)

支部間交流の様子



関西稲陵会での米原様(51期)といとこの中野代志美様(49期比田出身)



雲南支部懇親会での松崎様



広島・山口支部総会参加の荒川様(中央)



東京支部・懇親会での丸山様

訃報

前稲陵会長

松浦

昇氏

(第39期)

ご逝去



前稲陵会長 松浦 昇氏が、12月8日に亡くなられました。松浦 昇氏は、平成13年度から副会長を務められ、平成19年度に会長に就任されました。

平成23年度には横田高校創立九十周年事業を遂行され、学校後援会とPTA、稲陵会の三者からなる実行委員会を牽引されました。

逼迫する稲陵会会計の立て直しを図るため、平成28年度には会費値上げの英断を下され、平成29年度からは活動協力金の呼びかけを始められました。支部活動の活性化にも尽力され、平成29年度から支部間交流の取り組みを始められました。会計の改善と支部活動の活性化は、この間の、松浦前稲陵会長のリーダーシップによると言っても過言ではありません。ご冥福を衷心よりお祈りし、稲陵会をさらに発展させることで、松浦前稲陵会長の遺志を継いでいきたいと思ひます。

教育実習を終えて

伊 帳 田 樹 (第96期、体育)

「実習の感想」

教育実習に行く前は不安しかなかったが、実習に入りだんだん学校の環境に慣れ、また生徒との話も増え、自分自身に得るものも多く、この三週間で人間的にも大きく成長できたのではないかと思います。

「生徒の様子・生徒へのメッセージ」

自分たちの頃と比べるとはよくないかもしれませんが、自分たちの頃は全体的に挨拶が活発で元気があったと思います。皆さんも元気はあると思いますが、もっと元気に明るく生活してほしいと思います。

「今後の目標」

今後は就職し、一人の社会人になるので、この島根の地で日本に役に立てるよう周りの人と協力し、人としてお手本になるよう頑張っていきたいです。



早 戸 美 優 (第96期、体育)

三週間の教育実習で、確実に自分の身になるものを得ることができたと感じています。生徒との関わり方や授業の進め方など実践の場でしか学べないことが沢山ありました。

また、生徒の挨拶に横田高校の良さを再確認しています。今後もその明るさでよりよい横田高校にしていってほしいです。

ありがとうございました。



原 一 智 (第96期、理科)

実習前は、果たして自分に授業ができるのか、という不安しかなかった。生徒の前でしっかり話ができるだろうか、生徒は授業に参加してくれるのだろうか、とただただ心配だった。

実際に、授業の計画を立て、授業をしてみると、もちろん前記の不安はずっと抱いたままだが、生徒が頷いたり、笑ったりしてくれる姿を見ることができて、授業をする楽しさを持てるようになったと思う。そして、経験がないうちは、準備が非常に大事だと感じた。生徒は、概して素直な印象を受けた。高校生活でしかできないことをのびのびと取り組んでほしいと考える。

今後は、今回の実習を活かして、良き教員になれるように自己研鑽に励みたいと考える。



松 崎 康 汰 (第96期、体育)

今回の実習において、授業をする難しさを感じました。生徒の安全に配慮することに細心の注意を払いました。また、どのようにしたら生徒がより楽しく授業を受けてくれるのかなど考えながらの毎日でした。授業後に「楽しかった」などの声を聞けたときはとても嬉しかったです。

高校生の皆さんには、今しか出来ないことがたくさんあると思います。部活動や体育祭など社会に出ると出来ないものがあると思います。それに本気で取り組んで後悔しないよう頑張ってください。



